

検定試験ではそろばん・暗算ともに限られた時間の中で計算して解答用紙に答えを記入しなければなりません。急いで答えを書こうとするあまり、数字が雑になってしまい、その結果何の数字が書かれているのか全く読み取れない場合すらあります。一問でも多く正答したいという気持ちは分かるのですが、それにしてもこれはチョツとなあ…という場合も少なくありません。

比較的多いケースは、0と6(ゼロの上が突き抜けて6に見えてしまう場合や、その逆に短すぎて6がゼロに見えてしまう場合)ですが、それ以外にも乱れた数字を本当によく見かけます。対策としては、普段の練習から誰が見ても判読できるようにきちんと記入するように習慣づけること、常に先のとがった鉛筆を2~3本用意しておくことです。

71	73,845,012	-36,519,082
26	51,962,480	-92,470,815
7	80,479,321	14,826,350
8	34,581,679	31,094,762
9	67,103,852	-89,741,536
	96,237,504	-78,502,169
	19,740,236	40,938,257
	598,915,494	-9,648,392

1	11
2	2222
3	333
4	444444 + 4444
5	5555555555
6	6666
7	77777777
8	88888888
9	9999
0	0000

左にあるのは、過去の検定試験で実際に

あった数字を抜粋したものです。すべての数字が×(不正解)となりました。最上部の「1(イチ)」は一見すると、えっ、どうして?と思われるかもしれませんが、この「1」は始点から少しだけ右に移動してから下に降りています。このような書き方だと「1」と「7」とを混同してしまう可能性があるため、珠算ルールではNGとなっています。

- 検定試験のルールでは以下はすべて×となります。
- ・消しゴムの使用(訂正する場合は二本線で消して横に正答を書く)
 - ・数字の二重書き(なぞって書くこと)

12,345.67

コンマと小数点について



そろばんの場合、3級から掛け算と割り算で小数を扱った計算が出題されますが、この場合も数字と同様に、せっかく数字はぜんぶ全部正しいのに、この小数点はダメだなあ~という理由で×になってしまう場合があります。

コンマ・小数点に関するルール ----> 以下の場合はすべて×。

- (1) コンマと「1」の大きさが同じ (2) コンマと小数点の傾斜の方向がハッキリしない (3) コンマと小数の縦位置が数字間の中央より上にある (4) コンマと小数が数字と重なっている

よく目立つのが(1)(2)なのですが、記入するときにはカタカナの「ハ」の字をイメージし、コンマは左にはねる、小数点は右にとめる…を常に意識しながら徹底しましょう。

また、プリントに書かれている問題の数字は、コンマがグルグルチョン(分かりますか?)、小数点は小さなグルグルになっている(右下参照)ので、実際の答えもこれをマネして書いてしまう生徒が時々いますが、これもダメです。そもそも「グルグル」を書きただけ時間のムダ使いですよ~。

6,413 × 30.8 =

えっ、そうだったの!?



- 江戸時代までの日本では「123」を「百二十三」、「4,567」を「四千五百六十七」のように表記していましたが、明治時代に西洋式の帳簿記入法を取り入れる際に漢数字だと都合が悪いということで今のスタイルに変わり、この時に同時にコンマも導入されました。この方式を日本に取り入れたのは、一万円札の肖像画で有名な福澤諭吉です。

- 話が少し複雑になりますが、コンマと小数点については、国が変わればルールも変わります。日本と同じ3桁ごとのコンマ記号を「,」小数点を「.」としているのは、アメリカ、イギリス、オーストラリアなどの英語圏の国々。一方でドイツやイタリア、スペイン、ポルトガルなどでは日本と全く逆になり、3桁ごとのコンマ記号を「.」小数点を「,」で表します。なんとややこしい! まさに所変われば品変わる…ですね。

日本、アメリカ、イギリス、中国など

12,345.67

ドイツ、イタリア、スペイン、ポルトガルなど

12.345,67